

採卵鶏の長期飼育下における適正飼育期間の推定

研究のねらい

鶏の経済能力検定は当场が昭和 39 年から実施し、現在は、72 週齢までの鶏種の生産性や経済性等について成績を公表しています。

本検定を継続して取り組む中、最近では採卵鶏の育種改良、栄養、飼養管理の進展から、採卵鶏の生産性は飛躍的に向上しており、70 週齢時でも産卵率 90 %を維持する鶏種も少なくない状況となっています。

このため、生産現場では試行錯誤として 80 週齢前後までの飼育延長が検討されていることから、鶏の経済能力検定を延長する形で 90 週齢までの長期飼育試験を実施し、鶏種による長期飼育下での生産性・経済性及び鶏種毎の適正な飼育期間を明らかにしました。

技術の特徴

- 1 重量取引では、経済的指標となる飼料要求率の積算値が最も低下する週齢において利益が最多となり、この週齢が適正な飼育期間と推定されます（この週齢が長い鶏種は重量取引において長期飼育に向きます。）（図 1）。
- 2 個数取引では、経済的指標となる LL-MS 規格卵 1 個当たりの飼料摂取量の積算値が最も低下する週齢において利益が最多になり、この週齢が適正な飼育期間と推定されます。（この週齢が長い鶏種は個数取引において長期飼育に向きます）（図 2）。
- 3 長期飼育に向く鶏種は 1 及び 2 を満たすものが最良と考えられます。
- 4 なお、現在の採卵鶏は産卵持続性が高く、一定の長期飼育は可能と考えられますが、卵殻質の低下が顕著となるので、これらを

勘案し鶏群の更新、換羽誘導、加工卵出荷への切り替え等の時期を判断します。

供試鶏種

- 1 ジュリア 2 ジュリアライト
- 3 ウルトラライト 4 ハイラインマリ
- 5 バブコック B400 6 ジュピター
- 7 ハイラインソニア 8 ユラヌス
- 9 ボリスブラウン 10 シェーパーブラウン

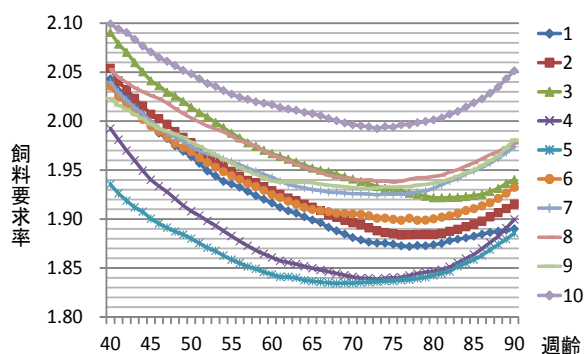


図 1 飼料要求率の推移

※総飼料摂取量÷総産卵重量

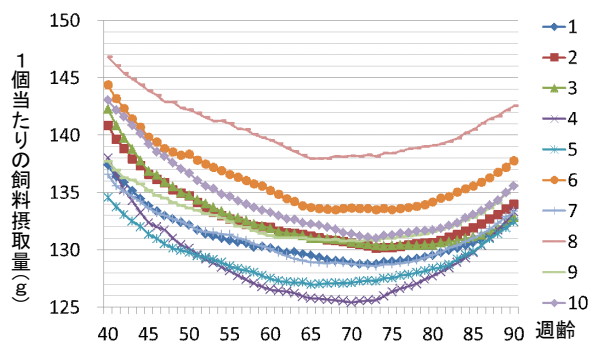


図 2 LL-MS 規格卵 1 個当たりの飼料摂取量

※総飼料摂取量÷LL-MS 規格卵の総産卵個数

今後の取り組み

県内の鶏卵生産者への普及に取り組むとともに、今後も長期飼育における採卵鶏種の能力・特性として情報提供を継続し、生産者の利益向上を目指します。

（筆者：後藤 美津夫）